



アコースティックバンド「テノヒラ」のボーカル 愛南町出身の kiku さんがつづるふるさとエッセイ

— あいなん音故地新 —

「世界は広い」

夏から秋の間に悲しいニュースが相次いだ。周りから見たら何の不自由もなく、幸せそうに見えていても本当の姿は誰にも分からん。本人さえも分からんときだってあるやろう。

もし今、どうしようもなく苦しくて、未来が見えず、誰にも相談できず、気が付いたら涙やため息が出るなら知っておいてほしい。あなたが思っているより世界は広い。あなたの目に映っている世界がすべてじゃない。一步遠くに踏み出せば新しい世界が広がるとる。いつだって泣いていいし、逃げていい。諦めても辞めても、人に馬鹿にされてもいい。

こんなに大変な世の中で、ただ生きとるだけで私たちはすでによくがんばるとるよ。朝起きて学校や仕事に行くだけでも偉い。宿題したりご飯を作ったりするだけでも偉い。特に今年は、みんな本当によく耐えてきたと思う。どうか、どうか自分に優しく、自分を褒めながら過ごしてほしい。好きなものを食べて、好きな本を読んで、好きな香りや音楽に包まれて、好きな人と好きな場所で好きなものに囲まれ過ごして、自分を満たしてほしい。皆さんに良い明日が訪れますように。

(テノヒラkiku)



本日！海日和！！ vol.120

「父さん、ただ今、育児中」

11月22日が語呂合わせで「いい夫婦の日」なので、11月は海の仲良し夫婦をよく紹介している。今月はノコギリヨウジのペアを紹介したい。

ノコギリヨウジは10センチメートルほどのタツノオトシゴの仲間で、タツノオトシゴの口と尻尾を持って、真っすぐに引き伸ばしたような姿をしている。岩陰に住み、スポイトのような口で、エビやカニなどの小さな生き物を吸い込んで食べている。

雄が卵を育てることで知られ、雄のお腹には育児嚢いくじのうと呼ばれる袋が付いている。これが雄と雌を見分けるポイントにもなり、雄が卵を抱えている時期はより区別が付きやすい。写真の手前が雄で、お腹に付いている白いツブツブが卵



【ノコギリヨウジ】

である。

親が卵を守る魚は多いが、卵を産んだ後でもペアでいる魚は珍しい。ノコギリヨウジこそいい夫婦の日どもてるにふさわしい魚かもしれない。

(撮影地：瀬ノ浜)

愛南サンゴを守る会 西尾知照